

Shimotsuke English Journal (SEJ)

Vol. 75



R 4.1.26

今月のキーワード

タブレット端末の活用

言語活動の流れ

1月、市ではルーターの貸出も始まり、児童生徒の家庭におけるオンライン学習も可能となりました。コロナウイルス感染症拡大に伴い、学校の実状に応じてタブレット端末を使用した学習も進んでいることと思います。今後もオンラインでの学習を想定した準備をお願いいたします。

タブレット端末を活用した授業

1月、薬師寺小では、デジタル教材を使用しながら、ALT と担任の先生がオンラインで授業を行いました。子どもたちと教材画面を共有することで、視覚的な補助も手伝い、先生方からの質問にも、子どもたちはスムーズに返答していました。

なかでも、**先生方からの指示がはっきりと、短いこと**で、子どもたちにとっても聞きやすく、分かりやすい授業が展開されていたようです。特に、オンラインでは、必要な指示を短く行うことが秘訣だと感じました。

Look at this picture.



First hint , second hint・・・ Can you guess?

さらに、**情報の保存機能を有効に活用し、評価や自己の振り返りに生かす**こともできます。特に中学校では、**音読などのパフォーマンス評価をオンラインで実施**してみてもいいでしょうか。

◆教科書の内容理解～音読活動までの授業の流れ(例)

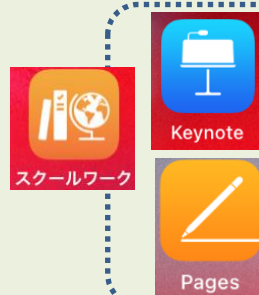
内容理解

- ①教科書を見ずに、画面に映し出される ALT と担任の先生の会話を聞く、または動画を視聴する。
- ②内容理解についての Q & A に答える。
- ③単語の発音や本文の読み方についての確認を行う。
一斉だけでなく、一人一人の声を拾って確認することも可能。

音読

- ④オフラインにし、各自で音読練習を行う。
読み方などの質問があるときには、個別にオンラインにして質問を受けることも可能。
- ⑤**スクールワーク**を使って、**Keynote** や **Pages** で音読課題を児童生徒に送信し、各自で録音した**音声**を貼り付けて教員用に送信する。

※動画などは、送信に時間がかかってしまうようなので、容量などを確かめてから実施することをお勧めします。



◆オンライン授業で使えるクラスルームイングリッシュ(例)

Open your tablet. Look at the screen. Can you hear me?

アクセスを指示する際には **Go to**・・・ **Click the**・・・

書き込みを指示する際には **Type your idea in**・・・

期日や提出物を指示する際には **Post your idea** in the class folder by February 3rd.



言語活動（話すこと）を中心とした授業の流れ



新学習指導要領の主旨を踏まえ、外国語科の授業の流れについてお示します。言語活動（話すこと）を主とした授業においては、小・中学校ともに、下記のような「中間の振り返り」を行い、子どもたちの思考を促し再構築できる流れを基本的な流れとして共有をお願いします。



外国語科 Teaching Basic Flow (R4~)

～言語活動（話すこと）を中心とした授業の流れ～

小・中・義務教育学校

1 導入

- 元気にあいさつをする。 / 英語で簡単なやりとりをする。
- 前時の復習をする。 / 本時の学習に関連する語彙や表現に慣れ親しませる。

2 展開

① Small Talk / めあての提示

- 必要に応じて Small Talk などを行い、本時の学習についての見通しを持たせる。
- 本時のめあて（ねらい）を児童生徒と共有する。



② 言語活動 1

- デモンストレーションを行う。 児童生徒が使う教材と同じものを使ってデモンストレーションをしましょう。
- ペアなどで、自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動に取り組ませる。

③ 中間の振り返り

- 言語活動1で、「伝えなかったが伝えられなかったこと」「上手くできたこと」などをクラス全体で共有する。

言語（語彙）面と内容面の両面から、中間の振り返りをしましょう。

④ 言語活動 2

- 中間の振り返りを生かして、再度言語活動に取り組ませる。

⑤ 全体で共有（発表など）

- お互いの良い点を共有し、自己の振り返りにもつなげる。

言語活動1との違いを見取り、評価につなげましょう。

3 まとめ

- 本時のめあて（ねらい）を基に振り返りをする。
- 良かったところを称賛し、次時の意欲へとつなげる。



☆授業づくりの視点☆ （授業を参観する視点）

- ねらいを達成させるために、見通しを持たせたり、ステップを踏んだ活動を取り入れたりしているか。
- コミュニケーションを行う目的や場面、状況を設定しているか。
- 互いの思いや考えを交流する時間は十分確保されているか。
- 自分の考えを再構築する場面（中間の振り返り）は効果的か。
- 担当が使う日本語は最小限にとどめ、基本は英語で授業を進める雰囲気ができているか。
- ALT との役割分担は適切か。

※観点別評価もあわせて、単元計画の中での位置付けを確認しましょう。

今後も、市の研修会では授業づくりの視点をもとに授業研究会を実施していきたいと考えています。教科部会や校内での授業研究会等でもご活用ください。

文責 学校教育課 稲葉亜希恵

